

大震災 再生の歩み

2017 1月

被災地の現状を、
毎月原則11日に
報告します

死者(全国)
1万5893人

行方不明者(全国)
2556人

震災関連死(3県)
3495人

避難者(全国)
13万740人

仮設住宅入居者数
(3県、みなし仮設含む)
7万9877人

岩手 1万5385人
宮城 2万3991人
福島 4万 501人

復興住宅整備状況

岩手 完成
4283戸
5694戸
計画

宮城
1万2039戸
1万5993戸

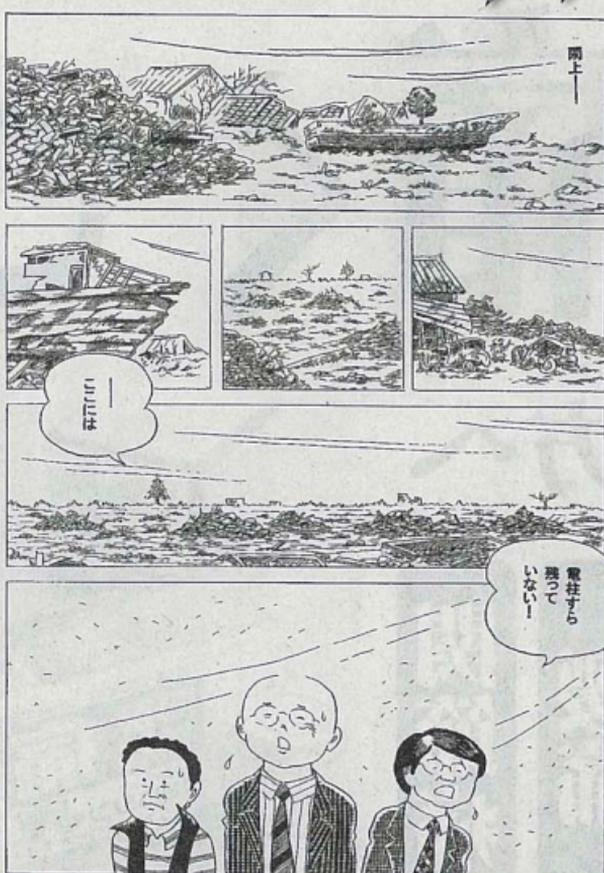
福島
5701戸
7999戸

直近のデータによる。
死者・行方不明者は警察庁、
避難者数は復興庁、
その他は各県まとめ



山下秀秋さんが描く 漫画3部作

漫画「生きる」のページ。山下さんは震災直後の2011年4月6日に宮城県名取市関上地区を訪れ、想像を絶する惨状を目の当たりにした



被災者の思い 演じ伝える

震災をテーマにした創作活動は、様々なジャンルで行われている。
宮城県気仙沼市の小学生や元漁師らは2013年秋、劇団「夢の海」を結成。地元や仙台市で上演してきた。

初公演は同年12月。大しけの海から戻った漁師の男性を、家族が迎える物語だった。発起人の戸羽芳文さん(63)は「演じた人も見た人も自分の体験を重ね、海の悲しみと喜びを感じたん

じゃないかな」と語る。公演には、船が浜に帰還する時に乗組員が歌う「唄い込み」などの郷土芸能を必ず織り交せる。戸羽さんは「被災者の心の内を語り継ぎたい」と意気込む。
福島県では、県立ふたば未来学園高(広野町)の演劇部が、原発事故後に自分たちを取り巻く問題をテーマに劇を創作。16年11月、南相馬市で開かれた相双地区高校演劇コンクールで最優秀賞に選ばれた。顧問の

「忘れ去られる」憤り 表現

小林俊一教諭(47)は「震災が徐々に社会から忘れ去られようとしていることへの憤りが生徒にある。演劇はそんな思いを表現する場になっっている」と話す。

「語り部」の活動も続く。宮城県南三陸町の「南三陸ホテル観洋」は、語り部が町を案内するバスを運行している。聞きに来る観光客は徐々に減ってきたが、同ホテルは1月29日に岩手、宮城、福島3県の語り部を集めた「東北被災地語り部フォーラム」を開く。震災の体験を効果的に伝えるノウハウや、誘客の方法を議論し、共有する予定だ。